

子どもたちの理解のために ～出張授業の楽しい利用法～

風間 美穂

小・中学校などへ出張授業は、きしわだ自然資料館の事業としてすっかり定着した感があります。出張授業とは、自然資料館の学芸スタッフなどが、小・中学校などへ直接伺い、理科や総合学習の時間の授業における指導や助言を行うものです。平成 17 年度は 23 件、今年度も 10 月末までに 21 件実施しており、担当の先生や保護者の方々から好評をいただいています。また最近は、岸和田市内だけでなく、近隣自治体にある学校園からの依頼も多くなっています。当館としても、より多くの子どもたちに自然の大切さを学んでもらうことができるうえ、自然資料館の存在をより多くの人々に認識してもらうことにもつながることから、出張授業は今後も継続して実施し、ご要望にお応えしてゆきたいと考えています。

1. 最近の傾向

さて、自然資料館で行っている出張授業ですが、最近みられる傾向として、次のようなことが挙げられます。

・小学校 6 年生理科「大地のおいたち」に関する依頼の増加

地質や化石についてはじめて学ぶ単元が、小学校 6 年生理科の「大地のおいたち」です。この導入として、当館が所蔵する化石の実物標本やレプリカ、岩石標本、古生物の復元パネルなどを用い、それらを実際に手にとってもらいながら、子どもたちが化石や地質を身近に体験できるようにした授業プログラムがとくに人気のあるものとなっています。このプログラムは、独立行政法人科学技術振興機構による「平成 16 年度地域科学連携支援事業」の委託で行った「郷土の化石大探検！キシワダワニとモササウルスを科学しよう！」という事業で開発したのですが、現在は、各学校の状況に合わせ、内容を再編成しながら実施しています。

・野外授業の依頼

自然のことを理解するには、まず実物にふれてみるのが一番の近道です。そのためか、最近は、野外授業でのゲストティーチャーの依頼が増えてきました。たとえば、久米田池の野鳥学習、和泉葛城山ブナ林での郷土学習、身近にある地層での化石の採集と観察、川にすむ水生昆虫の観察などです。子どもたちにはこうした機会が少ないのか、たいへん意欲的にとりくんでくれます。

2. 自然資料館からのお願い

このように、双方にとって大いに有意義な出張授業ですが、



小学校での講師のようす

以下に挙げる項目についてご留意いただければ、授業はなおいっそう良くなると考えられます。お忙しい中、なかなか難しい部分はあるかと思いますが、これらのことを少しでも念頭に置いていただければと思います。

・授業の依頼は1ヶ月前までに、まずはお電話で、そして依頼状を

自然資料館の学芸員は、出張授業以外にも、普及活動や展示、調査・研究、資料収集などのさまざまな業務を行わなければなりません、その中には、かなり以前から日程が決まっているものもあります。当館としては、できる限り多くのご要望に添いたいと思うのですが、とくに1ヶ月前より後の時期になると、すでに予定が埋まっていて、そちらを優先させなければならないことが多くなってしまいます。よって、出前授業のご依頼をされる場合は、できる限り1ヶ月前より早い時期にお願いいたします。

なお、出張授業を依頼される場合は、まずお電話で日程や内容についてご相談いただき、実施可能となった場合には、校長先生のお名前で、自然資料館館長宛に依頼状を出してください。事務手続き上、依頼状はなるべく2週間前までに印刷した文書でお送りください。FAXではお受けすることができません。ご面倒をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

・「何を伝えたいか」を明確に

自然資料館の学芸員は、自然についてはよく知っていますが、学校における授業の専門家ではありません。ご依頼の際には、どのような授業内容にするのか、何を子どもたちに伝えたいのか、先生方から方針を示していただきたいと思います。「ふつうでかまいません」とか、「おまかせします」、「何でもいいです」では、子どもたちのために本当に有効な授業ができません。「〇〇小学校で行ったものと同じものでいいです」という声もよくお聞きしますが、各学校の状況や学年、人数などがさまざまであるのに授業内容がまったく同じでよいということにはならないと思います。依頼される先生方は、どんなことでもいいですから、ご希望をお聞かせください。当館としてもなるべく、希望に沿った形で考えたいと思います。

・資料の運搬や準備、後片付けのお手伝い

出張授業の内容によっては、学校まで多くの資料を持ってお伺いしますが、その際に館の車だけでは一度で運びきれないことがあります。そのため、場合によっては一部の資料の運搬を先生方をお願いするかもしれません。また、校内に到着してから資料の積みおろしや実施教室までの運搬、準備、片付けなど、館のスタッフだけでは時間がかかってしまう場合がありますので、こちらも学校のみなさんで手伝いいただければありがたいです。

・授業導入部での説明

学芸員がお伺いして実際に授業を開始するとき、担当の先生方をお願いしたいのは、今回の授業内容がどのようなものなのか、どんなねらいで学芸員を呼んだのか、はじめに子どもたちへ説明していただきたいということです。授業の開始後すぐに先生が教室の後ろなどに下がってしまわれることがあります、これだと見ず知らず人による話がいきなり始まるので子どもたちがすっかりとまどってしまい、授業の効率がすっかり低下してしまうのです。

・先生も一緒に参加を

あまり多くはありませんが、私たち学芸員に授業を頼んだ後、担当の先生が別の用事で教室や野外の活動場所からいなくなってしまうことがあります。お忙しいとは思いますが、先生方もぜひ、子どもたちと一緒に授業に参加して楽しんでください。一緒に活動することで、普段の授業をさらに良くするきっかけが見つかるかもしれませんし、さらには子どもたちの安全確保にもつながるのです。

・自然資料館で授業を行いませんか

自然資料館では、大きすぎる、重すぎる、貴重である、飼育生物であるなどの理由で出張授業には持って行け

ない資料を数多く保管・展示しています。館内には展示室のほか、約 70 名が入れる多目的ホールなど、学習に使えるスペースがあり、持ち出せない資料も館内であれば利用可能ですので、授業を行う場所として自然資料館を利用してみてもいいでしょうか。時期によっては、特別展などで使用できない場合もありますが、空いているときには、事前に日程をお知らせいただければ、お部屋を予約することができます。どのような資料があって、どのような授業ができるのか、一度学芸員にご相談いただければと思います。なお、自然資料館の入場料は中学生以下はもともと無料ですが、学習目的で利用される場合には、減免申請書を提出していただくことで先生方も無料になります。

3. おわりに

今回、博物館としてのお願いや提案を書き連ねてみて改めて気づいたのは、学芸員の力だけでは、出張授業は成功しないということです。子どもたちは先生方を信頼していますが、学芸員はというと、多くの場合、ただの見ず知らずの人でしかありません。学芸員の方も、これから授業する子どもたちとは初対面ですので、どの子が今回のテーマに興味をもっているのか、質問をしたがっているのかなど、はっきりと知ることはできません。私たちが子どもたちと心を通わせ、真に効果的な授業を行うことができるのは、やはり先生方がいてはじめて可能なことなのです。

今年で、きしわだ自然資料館の学校へのお出張授業は 12 年目を迎えました。これからもみなさんのお役に立てるようなプログラムをいろいろ考えてゆきたいと思いますので、ぜひ活用していただきたいと思います。

(かざまみほ：自然資料館学芸員)

発掘調査をされていてよくある質問

山岡 邦章

遺跡の調査をしていると、必ず受ける質問があります。ユニークなものを紹介しましょう。結構みなさん本気で聞いてきたりするんですよ。

Q. 小判出たか？

非常に多い質問です。挨拶代わりでもあります。「何かええもん出たか？」といわれる場合もあります。これは発掘調査に対する大きな誤解からなのでしょうね。埋蔵金探しと考古学が混ざっていますね。第一、もし私が小判を目的に遺跡を掘っていたら「出た」って他人に教えるわけないじゃありませんか・・・というのは冗談で、遺跡の調査をされていて小判が出てくることはごく稀です。私も根来寺や和歌山城、岸和田城など埋蔵金のありそうな遺跡の調査に参加したり、担当してきましたが、百文銭 2 枚 (1/20 両) が最高額です。また、発掘調査は埋蔵金が目的ではありません。小さな土器のカケラでも、本当にそこで人の営為があったという証明ですから、そういうものが出てきてくれると小判より嬉しいものです。

Q. そこに柱があったって、何でわかるの？

ごもっともです。土なんてみんな同じ・・・じゃありません。人工的に土を掘り返して、埋めたり、埋没したりした土は必ず有機物の混入などで、色が変わります。また一度掘り返しているの、堅さも違います。その跡を丁寧に「ガリ」と呼ばれる本来は草削りの道具で削りますと、その痕跡が見えてきます。また手応えや削る音が変化します。加えて土器が混ざったりしますので、それらを元に総合的に判断して「柱」や「土坑」などの遺構として判断します。ですから闇雲に掘っているのではないのです。極端な大先輩には「心の眼で見ろ」などと無茶を言う方もいらっしゃいます。発掘調査は人間の五感の内、視覚、触覚、聴覚に加えて第六感？の心眼が必

要なようです。でもさすがに残りの味覚と、嗅覚は現場で使ったことがありません。この二つはお昼休みに使います。

Q. こんな広いところ「ハケ」や「ヘラ」で掘るのか？

そんなわけではないでしょう。テレビや新聞などで遺跡の発掘調査が報道されると、必ずハケやヘラで掘っている映像が出ます。でも、あれはほとんどが報道用のポーズです。実際の発掘調査は人力掘削作業の9割以上がツルハシやスコップでの土木作業です。重要な遺構に到達してはじめてハケやヘラでそっと掘ります。そのイメージが先行するんでしょうね。実際、新聞社の方が取材にいらっしゃっても、ハケとヘラ、ガリで削っているところのシーンを要求されます。その方が絵になるんでしょうね。ある意味ヤラセです（笑）。でもね。嘘じゃないんですよ。考古学の報道写真は「イメージ」だと思っておいってください。太古へとあなたの思考を掘り下げるためのイメージを提供しています。その掘り下げはツルハシではなく、ハケで丁寧をお願いします。

Q. 遺跡の上に家を建てたら祟りがあるの？ または、栄えるの？

年配の方に多いご質問です。答えはわかりません。でも、考えてみてください。例えば大昔のお墓があったとします。土中に埋まってしまって現在の地表面からはもうわかりません。私自身の考えですが、霊というものが仮にあったとして、霊が祟るのは自分の不幸な状態を知ってもらいたいからだと思っています。私たちが発掘調査をして、そこにお墓（古墳）があり、どなたかはわかりませんが、ある時代に生活されていた方であったということを証明する。これは、どんなお坊さんにもできないすごい「供養」だと思っています。だから、祟られる筋合いはありません。栄えるに関しては、よくわかりません。韓国などでは不幸なことがあった土地は、これ以上不幸なことが起こらないので、縁起が良いとして、住宅地などにすると優先して売れるそうです。トコロ変われば・・・ですね。

（やまおかくにあき：郷土文化室）

Information

■郷土資料館からのお知らせ■

企画展“くらしの道具”展

江戸時代～昭和戦前期頃までの庶民の生活道具約40点を展示します。

- ・会期：2006年11月30日(木)～2007年～3月11日(日)
- ・時間：午前10時～午後5時（入場は午後4時まで）
- ・入場料：大人200円 中学生以下無料
- ・休館日：月曜日(1月8日、2月12日は開館)、年末年始(12月29日～1月5日)
- ・主な展示資料：行灯・箱膳・銭升・絵馬ほか約40点

■自然資料館からのお知らせ■

第5回メランジェゼミ

自然資料館学芸員、きしわだ自然友の会有志の調査研究の公开发表会です。

- ・日時：2006年12月10日(日) 午前10時30分～午後5時
- ・場所：自然資料館1Fホール ・費用：無料
- ・申込：不要。聴講を希望する発表が行われる時間に自由にお越しください。
- ・内容：クモ、ホタル、鳥、魚、自然復元、化石、鉱物などに関する講演(13件)を予定しています。詳細は、直接、自然資料館にお問い合わせください。

※お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423-8100 FAX: (072) 423-8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/sosiki/k-nature/>
Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)

